

## 国語科における平成20年度授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・ 「話す・聞く」は、朝の会でスピーチの時間を取り入れたり、学年や全校の児童の前で話したりする機会を多く設定した。少しずつ成果が上がっているが、実際の場面で生かせる能力として十分定着しているとはいえない。
- ・ 読書習慣の定着、図書を使って調べたり考えたりする活動の推進によって、読書への関心は高まってきているが、読んだ内容に対して自分の考えを書いたり、テキストの書き方を評価して書いたりするなどの記述式の問題を苦手としている。この結果は、読む能力だけではなく、書く力との関連において課題がある。

### 国語科における調査結果の分析

内容 別結 果の 分析	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 国語科全体の平均をみると、学習指導要領の第5学年の目標・内容に照らして学習の定着状況については、十分とは言えない。</li><li>○ 平均正答率は「漢字を読む・書く」では、区平均と比較して開きが目立っている。<u>文の中での漢字の活用、練習がより一層必要である。</u></li></ul>
観 点 別結 果の 分析	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 「話す・聞く」は前回と比べて、<u>上昇。やや成果が出たと言える。</u></li><li>○ 国語科としての能力をバランスよく身につけるためには、<u>教材文の特質や様式に応じて読み、書くことや話すことの表現活動に活用できるようにする必要がある。</u></li></ul>

## 調査結果に基づいた授業改善のポイント

### 【内容】

1 「読むこと」における学習内容の定着が十分ではない。

→ (低) 読書に親しむ態度を育成するために、週に一時間、読書の時間を作っている。また、図書の貸し出しを積極的に行い、月4冊は読むように薦めている。また、朝の読み聞かせ活動においても、今後も保護者の方の協力して頂ける様をお願いをする。第1学年「本とともにだちになろう」では、8時間扱いであるが、10時間扱いとし、想像を広げて読む活動に重点を置いて指導する。

第2学年「スイミー」では、14時間扱いであるが、16時間扱いとし、音読発表会を行う。十分に本文の内容読解をさせた上で、気に入った場面を選び、グループで音読させる。

(中) 「読むこと」については、単元の教材を繰り返し読み込み、段落ごとの要点が捉えられるよう指導法の工夫を図る。読書活動推進においては、朝の読み聞かせに、保護者の方の協力を一層戴けるよう、要請していきたい。第3学年「ちいちゃんのかげおくり」の単元では、11時間扱いだが、13時間扱いの指導計画を立て、場面理解や情景、登場人物の心情などを叙述に即して読み取れるよう指導していく。また、時代背景の把握を指導し、同時代に描かれた本を推奨し読書意欲の向上を図りたい。第4学年「一つの花」では10時間扱いだが、12時間扱いの指導計画を立て、作品の中の大事な言葉に気をつけて読むとともに、接続語に着目し、段落相互の関係もとらえるようにする。

(高) 「読むこと」については、目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる指導法の工夫を図る。読書活動推進においては、保護者・地域の協力を尚一層頂ける様に要請し、個人の目標冊数を明確にし、がんばり賞を作成したりする。第5学年「大造じいさんとガン」の単元では、16時間扱いだが、18時間扱いの指導計画を立て、図書資料の選び方やノート指導を徹底させる。第6学年説明的文章の単元では、2時間増やした指導計画を立て、筆者の伝えたいことを考えたり、自分の考えをもったりさせる。図書資料の選び方の指導を徹底させる。

## 【内容】

2 「話す・聞く」における学習内容の定着が十分ではない。

→ (低) 友だちへの自己紹介など話し手と聞き手が対一になるような活動を多く取り入れ活動経験を積ませる。話の内容も身近な話題を設定して、知らせたい、話したいという意欲を高める工夫をする。また、話すこと・聞くことの言語活動は、児童の心理的な面と大きくかかわっていることを念頭に置き、学級経営の上で、話しやすい学級、話したくなる学級経営を行う。第1学年「おみせやさんごっこをしよう」では、8時間扱いであるが、10時間扱いとし、客と店の人の気持ちを考え、客と店の人になりきって売り買いのやり方の展開に余裕を持たせ、個別指導を実施する。

第2学年「ともさんはどこかな」では、大事なことを落とさずに聞くことができるように、メモを取らせながら話を聞く指導を徹底させる。

(中) 「話すこと」については、相手や目的に応じた適切な言葉遣いや、筋道を立てて話をすることの定着が十分とはいえない。話の中心を考えて話すことや、接続語を入れて順序だてて発表をしていけるような指導を重視していく。「聞くこと」においては、必要なことはメモをとって聞くことの徹底をしていく。第3学年「分類ということ」の単元では、14時間扱いだが、16時間扱いの指導計画を立て、適切な言葉の選択や、発表の際の声の大きさ、速さ、聞く際のメモの取り方等を重点的に指導していく。第4学年「伝え合うということ」の単元では、14時間扱いだが、16時間扱いの指導計画をたて、友達に自分の考えが分かるように筋道立てて話すために、どのようなことに気がつけたらよいかを、友達の発表と比較しながら学習し、定着を図る。

(高) 目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すことと、意図を考えながら話の内容を聞くことを重点的に指導する。全学級共通の「声のものさし」や相互指名の推進に更に力を入れていく。第5学年「工夫して発信しよう」の単元では、14時間扱いだが、16時間扱いの指導計画を立て、発信者側の意図を聞き、発信する場合は、わかりやすく話す指導や情報収集活動の指導を徹底させる。第6学年「今、わたしは、ぼくは」の単元では、6時間扱いだが、8時間扱いの指導計画を立て、友達の話の意図を聞きとり、適切な構成で話す指導を徹底させる。

【内容】

3 「書くこと」における学習内容の定着が十分ではない。

→ (低) 書くことを楽しみ、書くことに親しむ経験を多くもたせる。中でも、書くことに対する児童の必要感を生かすことに重点を置く。言葉で書きあらわしたくなるような出合いの工夫をする。第1学年「どうぶつのあかちゃん」では、11時間扱いであるが、13時間で計画し、動物のあかちゃんについて書くのに必要な事柄を集める時間を十分に取、個別指導を徹底する。

第2学年「漢字の広場」では、教科書に載っている漢字を使って文章を書く活動を行う際、ノート指導を徹底させる。

第2学年「かんさつ名人になろう」では、生活科の「ぐんぐん育て」との関連を図る。生活科で自分の育てたい野菜についての観察記録を書く指導を行う。そうすることで、児童の興味・関心を一層高める。

第2学年「今週のニュース」では月に2～3回のテーマを決めて、宿題を出すことで、知らせたいことを見つけて書く指導を徹底させる。

(中) 「書くこと」については、個人差が見られ、書くことに意欲的な児童もいれば、書くこと自体に苦手意識をもっている児童も多く見られる。苦手意識を抱いている児童に対しては、適切な表現ができるよう個別に指導していく。第3学年「せつめい書を作ろう」の単元では、14時間扱いだが、16時間扱いの指導計画を立て、相手に的確に伝わる文章を書くことの指導を重視していく。第4学年「四年三組から発信します」では、17時間扱いだが、19時間扱いの指導計画をたて、取材した事柄を分かりやすく書く活動を通して、相手に応じた表現方法を身につけることを目指す。

(高) 「書くこと」は、個人差が大きい。日記や作文を好んで書ける子から、平仮名ばかりの作文で個別指導している子も少なくない。第5学年「物語を作ろう」の単元では、4時間扱いだが、6時間扱いの指導計画を立て、資料を基に創造を広げ、構成や表現を工夫して物語を書く指導を徹底させる。第6学年「みんなで生きる町」の単元では、13時間扱いだが、15時間扱いの指導計画を立て、提案内容を理解してもらえるように具体的に書くことを徹底させる。また学校行事や授業の短い感想文を書く機会を増やし、自分の気持ちを文章で表す力を養っていく。

### 【観点別】

- 「話す・聞く」は前回と比べて、上昇。だが、まだ本校の課題とも言える。
- (低) 声のものさしの具体的取り組みや、毎日の日直での活動の話し方の指導を徹底していく。聞く姿勢、挙手・発言のきまりを徹底する。
- (中) 各学級でのスピーチタイムの計画的実施のほか、聞く態度、聞く姿勢の徹底に力を入れる。話をする、話を聞く際には、要点をメモにとるなど、話したいこと、聞くことを整理できる習慣を身に付けさせたい。また、基本的な話形についても指導し、定着を計りたい。
- (高) 各学級でのスピーチタイムの計画的実施・声のものさしの徹底・相互指名の推進などの定着状況を随時確認していく。本校は、教科担任制を実施しているので、各クラスの平均化が進んでいると思われるので、より5クラスの底上げに力を入れていく。
- 2 国語科全体の学習内容定着のための訓練や個別指導が必要である
- (低) 読み聞かせの充実・読書活動の推進（個人別目標冊数決めやそれに伴う表彰の工夫改善）。言語事項の定期的チェックテストによるトレーニング。
- (中) 漢字小テストの定期的実施や、音読・漢字の家庭学習を取り入れ、学力が不十分なところを補う。国語辞典を引く習慣をつけさせ、語彙量を増やさせたい。読書の時間の確保や、読み聞かせの時間の充実で、読書意欲の向上を図るとともに、読解力の向上を目指したい。
- (高) 漢字ミニテストを定期的実施し、トレーニングを中心とした取り組みを充実させる。クラス内、グループ内の教え合い活動を活性化させ自習中での、学習力向上を図る。国語辞典や、漢字辞典を進んで活用し、語彙を増やす。読書環境の整備、地域の人材の更なる開発に力を入れ、読書目標を設定し、本に親しむ指導を充実させる。